KOIZUMI

小泉産業株式会社
発行：2023年7月
〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7
https://www.koizumi.co.jp/

この製品は、適切に管理されたFSC®認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

この印刷物は、石油系溶剤を含まない「ノンVOCインキ」を使い、印刷しています。

COMMUNICATION REPORT 2023

小泉産業グループ　コミュニケーションレポート2023

KOIZUMI
＿違う発想がある

CONTENTS

COMMUNICATION REPORT 2023

INTRODUCTION

2 KOIZUMI SPIRITS
- 4 はじめに「ヒト」ありき。KOIZUMIの経営を支える哲学
- 6 商品とサービスに磨きをかけ、お客様と社会に貢献する

9 小泉産業グループの事業紹介

10 GROUP TOP MESSAGE

12 SDGsへの取り組み

16 コイズミ照明株式会社
- 16 TOP MESSAGE
- 17 宮前迎賓館 灯明殿
- 20 ジェイアール名古屋タカシマヤ 7階 紳士靴売場

22 コイズミファニテック株式会社
- 22 TOP MESSAGE
- 23 新たな発想のラインアップでお客様の選択肢を広げたい

24 株式会社ハローリビング
- 24 TOP MESSAGE
- 25 総合力を活かしたインテリアコーディネート

26 株式会社ホリウチ・トータルサービス
- 26 TOP MESSAGE
- 27 ホテルのFF&E、OS&E搬入設置一括管理

28 コイズミ物流株式会社
- 28 TOP MESSAGE
- 29 2024年問題解消を目指す電材プラットフォーム開設

30 GROUP TOPICS

34 小泉産業グループ 概要

当COMMUNICATION REPORTは、新型コロナウイルス感染拡大に十分に配慮した上で、制作を行っております。

KOIZUMI SPIRITS

1716年の創業以来、
小泉産業グループは
人々が求めるモノや価値を、
いち早くカタチにして贈り届けてきました。
一貫させてきたのは、
お客様を第一に考え、
マーケットの動きを読み、
未来を見つめる視点を忘れないことです。
そしてそうした活動の根底では、
商品、サービス、ソリューション、
それらを「人から人へ。」届けることを
大切にし続けてきました。
「コイズミ スピリッツ」とも言うべき
その精神がどのように生み出され、
育まれてきたのか。
当社の歩みとともにご紹介します。

SPIRITS 01

すべての発想の基本

三方よし

SDGsの観点などから世の中で「三方よし」の精神が、改めて注目されている。その中で当社は創業以来、時代に適応させながら、この精神を継承し、お客様に価値として還元し続けている。また、「自分たちだけ、儲かればよいではいけない」という考え方が経営や社員教育でも重視され、仕事に対する心掛けになっている。

SPIRITS 02

進取の気性を表す

__違う発想がある

従来の習わしにとらわれることなく、積極的に新しい物事へ取り組む気質や性格を指す「進取の気性」は、まさにブランドステートメント「__違う発想がある」そのもの。過去の市場参入や商品・サービスの開発などでも、時代の一歩先を行く「価値」を、お客様に提供し続けてきた。

SPIRITS 03

時代の流れとお客様ニーズに応える

特殊特徴品主義

「特殊特徴品主義」こそが、変化の激しい時代を乗り切り、将来を切り拓くための貴重な宝になるという考えを戦前から貫き継承している。これは現在のブランドステートメント「__違う発想がある」につながっている。また、この考えの根本には「時代の流れとお客様のニーズをいち早く知る」がある。

SPIRITS 04

「人格の育成向上」をベースにした商道徳と社員教育

この言葉は、「近江商人」のよき伝統である「社員教育（当時は社員の子弟）」が継承されたもので、グループの社是でもある。「商道徳」と「社員教育」のベースに常に「人格の育成向上」を置き、現在も「コイズミアカデミー」など階層ごとの教育を熱心に実施している。

SPIRITS 05

お客様を思う姿勢 粘り強さ、積極性、情熱、そしてアイデアとセンス

300年以上の歴史の中では、「戦争」「不況」「統制」「リーダーの急逝」「市場変化」など、さまざまな苦境を数多く経験してきた。それらを乗り越えられた最大の要因は、社員の気質（粘り強さ、積極性、情熱、忍耐など）であり、その経験が、お客様に価値を提供する「アイデア」「センス」を生んできたといっても過言ではない。そしてそれらのスピリッツは、人を変え、カタチを変え現代にも息づき、お客様から信頼をいただくゆえんとなっている。

はじめに「ヒト」ありき。
KOIZUMIの経営を支える哲学

300年を超える小泉産業グループの歴史には、「ヒト」を経営の根幹に据える哲学が息づいています。
「ヒト」が創り、磨き上げてきたKOIZUMIの軌跡をたどります。

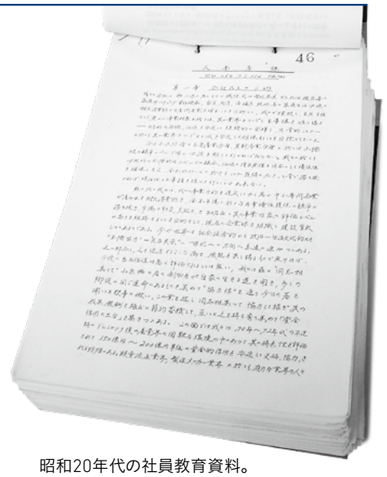
「三方よし」をベースに、「人格の育成向上」による発展を目指す

今もなお、多くの企業が経営の手本とする近江商人の「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」。近江商人をルーツとする小泉産業グループは、その「三方よし」の精神を大切に継承しながら、独自の経営哲学による企業文化を醸成し、300年以上にわたり事業を営んできました。

社章の⁂（ミツウロコ）は、得意先、取引先、会社の基盤を築いた先人への感謝を忘れない「三恩主義」の思いを表現。また、企業の永続的な発展の源泉を「ヒト」と捉え、その意味を社是「人格の育成向上」に込め、その本質を継承するための従業員教育を徹底し続けています。

1716年	創業（近江商人 小泉太兵衛 麻布の行商に出る）
1871年	近代創業元年（大阪・船場の備後町に出店。創業の精神ができる）
1904年	三恩主義に基づく社章⁂を制定。社是「人格の育成向上」ができる

近江商人



昭和20年代の社員教育資料。
当時すでに、マズローの欲求5段階説に言及

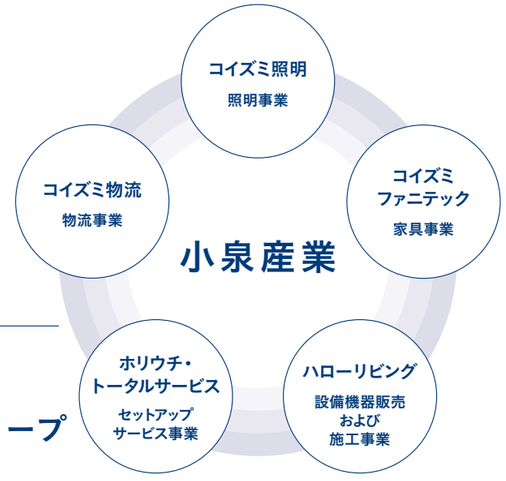
商人道の基本として「人格の育成向上」の浸透に情熱を傾けた立澤四郎専務（左）

西教寺での新入社員研修

社会の変化、お客様ニーズに対応し、市場を導くための組織へ柔軟に進化

いち早く社会の変化を読み、お客様ニーズをつかむ「マーケットイン」思考をベースに、他社にはない価値を提案する「特殊特徴品主義」を使命に事業を展開し、発展を続けてきた小泉産業グループ。

その使命を果たすため、常に最適な事業構成や組織を模索。時代に即した柔軟な経営体制によりお客様、そして社会への貢献を目指してきました。現在は、「モノ売りからコト売りへ」という発想のもと、グループの総合力によるシナジー効果で、お客様に付加価値を提供できる体制を敷いています。



シナジー
効果を図る
小泉産業グループ

1943年	航空機ゲージの加工販売等を手掛ける「五光精機工業㈱」設立（戦時下の統制により繊維から業態を転換）
1946年	「小泉産業㈱」に改称（電気製品の製造卸業を開始。照明事業への第一歩を踏み出す）
1957年	照明市場に本格参入
1967年	家具市場に本格参入
1981年	「㈱ハローリビング」設立
1985年	照明、インテリア、商事の3事業本部制を確立
1989年	商事事業本部を分離。「小泉成器㈱」設立（卸売業と分離することで、ブランドメーカーを目指す）
1999年	「コイズミ物流㈱」設立
2006年	照明事業と家具事業を分社し、小泉産業㈱は純粋持株会社となる（事業の自主独立性を高める狙い）
2013年	「㈱ホリウチ・トータルサービス」がグループに加入

「特殊特徴品主義」を提唱した
三代目小泉重助

責任を果たし、信頼を築く、思いの詰まった「ブランド推進」

小泉産業グループにとってブランドは、社会とお客様に対して果たすべき責任、約束の象徴であり、従業員の心、意識を結束させ、企業の成長につなげるためのモチベーションの象徴でもあります。

経営層と従業員がともに作り上げた、現在のブランドロゴも、KOIZUMIブランドの存在意義（ブランドパーパス）が集約された、熱い思いの詰まったものです。

これからもKOIZUMIブランドに、誇りと責任を持ち、さまざまな価値を提供していく考えです。

KOIZUMI
＿違う発想がある

1980年	創業110周年を機に、インナーブランディング活動として、意識改革を促す「テイクオフ大会」を、全社員を集めて開催
1981年	組織構造改革と社員の意識変革を図る「ニューボーン活動」が始動
1986年	CI導入。新たなシンボルマーク（当時）KOIZUMI を作成。企業理念と企業イメージの見直しと全体最適化を目指す
2015年	ブランドを刷新。ブランドアイデンティティを明確化し、新たなロゴとステートメントを作成。ブランド推進の専任部署も設置

商品とサービスに磨きをかけ、お客様と社会に貢献する

1947

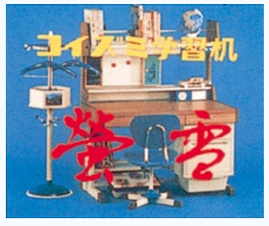
コイズミ照明機器のルーツ「電気スタンド」

敗戦から2年目、家庭電化時代の到来を予測し、電気生活用品を開発。その一つが電気スタンド。以後、フレキシブルスタンドに始まり、カットスタンドや和風スタンド、そして蛍光灯スタンドへと進化する

1966

業界初の蛍光灯付き学習机「螢雪」

高度経済成長で人々の生活にはゆとりが生まれ、モノへの投資のみならず、子どもへの投資・教育熱も高まった。そこに着目し、自社の照明技術を活かした、業界初の蛍光灯付き学習机を発売した



1967

業界初の試み「照明のショールーム」

昭和40年代には照明を販売する取引先が急増。売り方がわかりづらい照明器具の「売り方提案の場」としてショールームを開設。商品を見るだけでなく、売り場づくりや提案のノウハウも提供した

料理ができる食卓 クックテーブル「晩餐」

住宅の洋風化でダイニングテーブルの需要が伸びる中、「鍋料理で、ガスコンロの準備が手間」という主婦の声に着目。開発したガスコンロ付きのテーブルは、お客様ニーズにマッチし、大ヒット商品となった

1973

照明設計のノウハウを提供「ライティングアカデミー」

照明には器具と、光が生み出す空間演出の両面がある。空間づくりに大きな影響を与える照明設計のノウハウを、プロの方々に伝えることで照明文化の発展を目指した

1976

光を知り尽くしたプロフェッショナルチーム「LCR」

「空間は光が構成する」という考えのもと、早くから照明設計を専門に担う部門LCR（Lighting Creative Room）を設置。商業施設などの先進的な空間を対象に、数々の照明提案を行ってきた

1977

資源枯渇への対応とコストダウンを両立「ラバーウッド」の採用

ラバーウッド（ゴムの木）は、本来は廃材になるものだが、その硬さと手触り、そして成長の早さに着目。成長が早く、値段が安く、安定的に調達できる「一石三鳥」の素材として採用した

1978

棚を外せば高校まで「6・3・3で12年」使える学習机

従来の学習机は、本体と棚の一体型が主流。上級生でも平机として長く使えるよう、棚の取り外しができる設計で開発した新しい学習机は「6・3・3で12年」のキャッチコピーとともに普及した

1982

動くあかりのショールーム「ライティング・セボアール」

「現物を確かめてから決めたい」というご要望に応えるため、トレーラーを改造したショールームを特注。「全国津々浦々までショールーム」という発想で、全国のお客様に向け移動展示を行った

1987

コイズミ国際学生照明デザインコンペ

若き人材の育成とあかり文化の普及を目的に、世界の学生を対象とした、世界唯一の照明デザインコンペを創設。以来25回開催し、応募者は延べ42カ国、3万3千人にのぼった

1988

時代を変えた省エネ照明「インバータ照明器具」

省エネのトレンドを背景に開発された高効率、静音、瞬時点灯などが特長のインバータ回路。専業メーカーでいち早く商品化に取り組んだ当社は、充実のラインアップでお客様のご要望に応えた

1990

学習机の新常識「インバータデスク」

照明業界で早くからインバータ器具の開発に取り組んできた当社は、業界に先駆けて、学習机の照明にも、目にやさしいインバータライトを導入。学習机の「新しいスタンダード」を確立した

体感型ショールーム「コイズミライティングシアター イズム」

従来の「器具のコーディネート」中心の考え方とは一線を画し、ショールームに“体感”の概念を導入。さまざまなシミュレーション装置を導入した設備は、業界に新たな風を吹き込んだ

1991

専業メーカーとしての技術ベースを確立「開発技術センター」

独自の照明技術の研究・開発をテーマに生まれた開発技術センター。商品開発に必要な基礎応用技術を研究する部門、デザインから商品化まで担う部門などを設け、技術ベースの確立に取り組んだ

1997

ホームページによる情報発信

普及率10%程度というインターネット黎明期に、業界でいち早くホームページを開設。お客様満足向上と透明性の高い経営を目指し、商品、リクルート、経営など、さまざまな情報発信を強化した

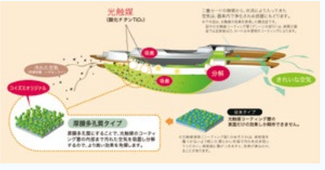
1999

子ども用の学習家具に安心・安全を「健康デスク宣言」

子どもが使う学習家具こそ安心・安全であるべき。その考え方に基づき実施した「健康デスク宣言」。健康・安全・環境を考慮し、ホルムアルデヒドやダイオキシンなどへの対策を講じた

空気を浄化するあかり「光触媒照明」

光触媒と紫外線の特長を組み合わせるという発想から生まれた、室内の空気を清浄に保つ機能がある照明器具。シックハウス症候群が社会問題化した当時、発売当初から注目を集めた



2001
2002

ISO9001 認証取得　ISO14001 認証取得

照明事業で「ISO9001」「ISO14001」の認証取得

2001年に品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」、2002年に環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得。品質保証体制と環境経営機能の強化に取り組んだ

2006

学習机の新しいカタチ「ステップアップデスク」

「机＋上棚」から「机＋書棚」への発想転換で、机と書棚を「合体式」と「分離式」のどちらでも使用可能にし、子どもの成長に合わせた自由な使い方を提案。この手法は、翌年の他社新商品でも多く採用された

2011

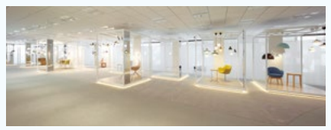
児童養護施設への「学習デスク寄贈活動」

児童養護施設の子どもたちへ、自社の学習机を寄贈。ただ商品を送るだけでなく、社員が現場で子どもたちと一緒になって組み立てる活動は、物心両面での支援として寄贈先からも喜ばれている

2013

LED照明提案型スタジオ「KLOS」

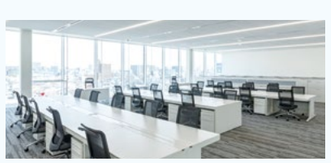
LED照明の最適化提案や最新技術紹介など、お客様との双方向コミュニケーションによる課題解決を目指す、これからのイノベーションの場として開設。室内の表情を変えながら施設全体で光のあり方を表現できる



2014

照明制御の国際規格「DALI」対応商品の発売

快適な空間を実現する照明制御技術として、大型施設やオフィスで普及が進むDALI。コイズミ照明は、他社に先駆けてDALI対応商品の開発に着手し発売した



2017

あかり文化創造拠点「コイズミ照明 R&Dセンター」竣工

「あかりの杜」をコンセプトとした、LEDに特化した研究・開発施設兼実践型ショールーム。最新の照明設備を備え、環境や働き方などにも配慮した革新的オフィスは、お客様からも高い評価をいただいている

2018

照明制御システム「TRee」開発

住宅のIoT化に対応し、家中の照明をコントロールできる「TRee」システムを開発。スマートスピーカーとも連係し、話しかけるだけで、設定したシーンへの変更や調光調色のコントロールができる

2020

照明専業メーカー初の試み「BIMデータ」の提供

設計、施工から管理まで、建築の新たなシステムとして、大型プロジェクトで導入が進むBIM（Building Information Modeling）。設計者や施工者の生産性向上に貢献するため、照明専業メーカー初のデータ提供を開始した

2022

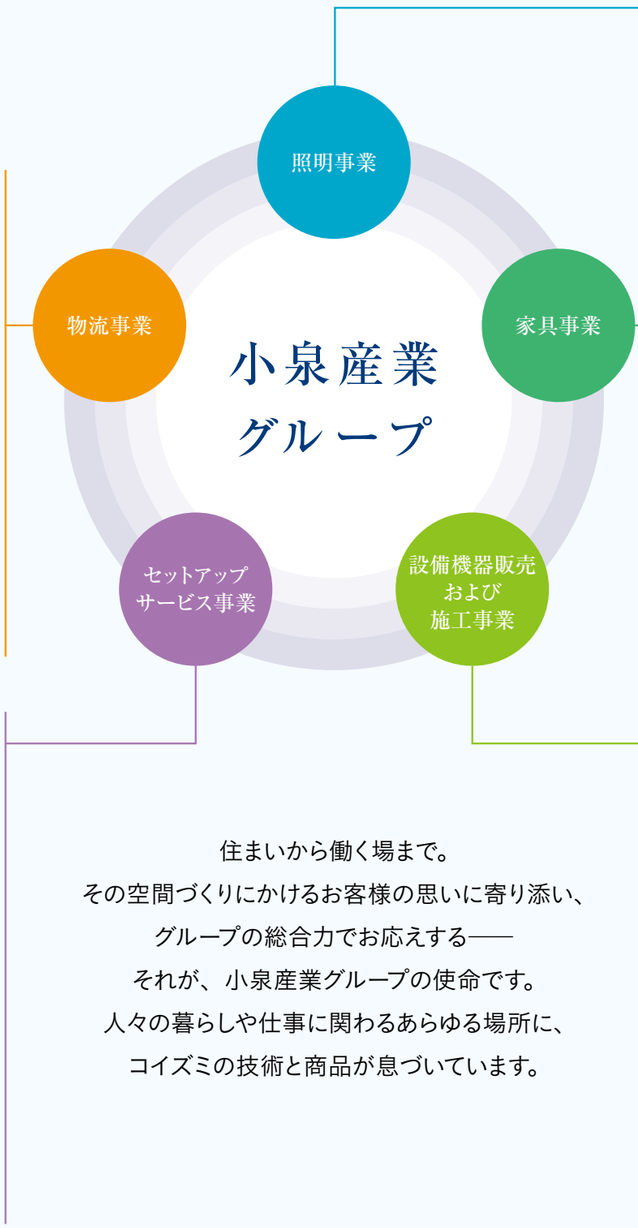
プレキッズ事業立ち上げ

多様化する学びのニーズに応え、「体育・知育・心育」の視点で子どもたちの健やかな成長を応援するプレキッズ事業を立ち上げ。学習家具事業で培ったノウハウを活かし、幼児・未就学児向けに3シリーズの新商品を展開した

「違う発想がある」商品とサービスをこれからも。

小泉産業グループの事業紹介

空間創造の幅広いニーズにグループ力で応える



住まいから働く場まで。
その空間づくりにかけるお客様の思いに寄り添い、
グループの総合力でお応えする——
それが、小泉産業グループの使命です。
人々の暮らしや仕事に関わるあらゆる場所に、
コイズミの技術と商品が息づいています。

コイズミ照明㈱

最先端の技術を駆使したスマートな照明環境を創造

空間づくりにおける照明設計と、照明器具の企画・開発を、住宅・店舗・施設の各領域で展開しています。施主様のご要望に寄り添うご提案を行いながら、最先端の技術を駆使したスマートな照明環境の創造に取り組んでいます。

コイズミ物流㈱

高品質な物流サービスを幅広いお客様に提供

小泉産業グループ内外の幅広いお客様に物流ソリューションを提供しています。社員一人ひとりが物流のプロとして高品質なサービスを提供し続けることで、お客様からの厚い信頼を築いていきたいと考えています。

㈱ホリウチ・トータルサービス

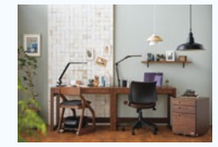
多様な施設を対象にセットアップ事業を展開

ホテル・オフィスをはじめとしたさまざまな施設を対象に、什器や家具のセットアップ事業を展開しています。事業のベースとなる人財育成に取り組みつつ、業態や取扱商品の拡大にも力を注ぎ、事業の成長を目指します。

コイズミファニテック㈱

家具がもたらす未来の生活・成長・環境を応援

50年以上にわたり学習家具を展開しています。今後は、子どもだけでなく、全てのライフステージに合うデスク家具事業、幼児、未就学児に向けたプレキッズ事業、理想の眠りを追求したマットレス事業の3つの事業を展開してまいります。

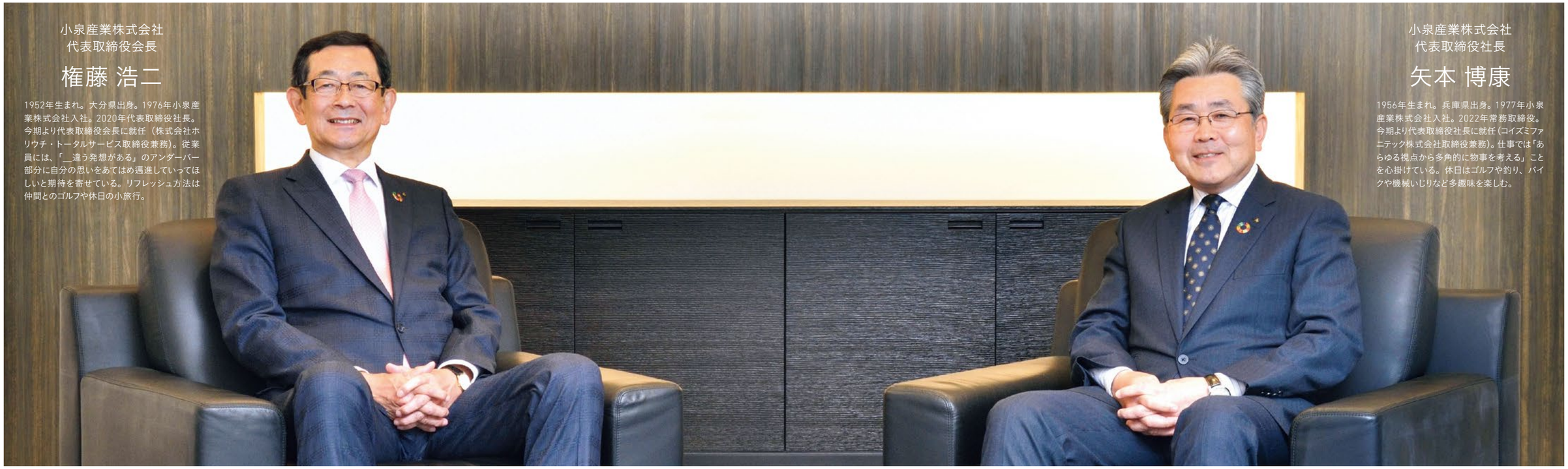


㈱ハローリビング

商品調達から提案・施工までワンストップで快適空間づくりを全力でサポート

住宅・店舗・施設市場において、あらゆるインテリアエレメントの商品調達・提案・販売・施工を通じてお客様の暮らしに快適さと心地よさをお届けします。

時代に適応する、社会からの　信頼が厚いグッドカンパニーへ



小泉産業株式会社
代表取締役会長
権藤 浩二

1952年生まれ。大分県出身。1976年小泉産業株式会社入社。2020年代表取締役社長。今期より代表取締役会長に就任（株式会社ホリウチ・トータルサービス取締役兼務）。従業員には、「__違う発想がある」のアンダーバー部分に自分の思いをあてはめ邁進していってほしいと期待を寄せている。リフレッシュ方法は仲間とのゴルフや休日の小旅行。

小泉産業株式会社
代表取締役社長
矢本 博康

1956年生まれ。兵庫県出身。1977年小泉産業株式会社入社。2022年常務取締役。今期より代表取締役社長に就任（コイズミファニテック株式会社取締役兼務）。仕事では「あらゆる視点から多角的に物事を考える」ことを心掛けている。休日はゴルフや釣り、バイクや機械いじりなど多趣味を楽しむ。

「変革」が小泉産業グループの歴史をつくる

小泉産業は、2023年に会社設立80周年を迎えました。さらにさかのぼれば、近江商人の時代から308年続くグループ企業ですが、その歴史は、時代に適応するための「変革」の連続に他なりません。2021年度の中期経営計画では、3つの変革に取り組んでいます。まず、「ビジネスモデルの変革」では、新規事業売上構成比の目標値を掲げ、将来の柱にすべく新たな領域に挑戦していますが、グループ各社とも現時点で目標の7〜8割を達成しています。「組織風土の変革」では、従業員エンゲージメント調査を継続し、グループ各社に合った施策を実施しています。エンゲージメント向上の出発点は、会社と従業員との“共感”です。コミュニケーションを深めて理解し合い、ベクトルを合わせることが大切だと考えています。そして、「デジタル社会への変革」では、投資を惜しまず各社の業務に適合したシステム構築を進めています。日常業務が効率化されることで、より新たな発想力を持ってほしいと期待しています。2023年度はこれら3つの変革の総仕上げを行い、次のステップへの足掛かりをつくる1年にしていきます。

当社は「社会から信頼されるグッドカンパニーとなる」を経営ビジョンとして掲げていますが、SDGsの取り組みは、まさにグッドカンパニーを目指す上で不可欠です。ビジネスを通じて社会の課題解決に向き合い、持続可能な企業経営を進めています。

この度の会長職就任に伴い、経営者の育成や方針を着実に進めていけるよう指導する立場としても、従業員には、言わば“ファーストペンギン”のように積極的にチャレンジしてほしいと願っています。

小泉産業グループの全ての活動の根底にあるのは「__違う発想がある」のスピリッツです。それぞれが“違う発想”を意識しながら、時代の一歩先を行く「新しい価値」を提供し、期待される企業でありたいと考えています。

オールコイズミで三方よしを実現し、社会に貢献する

2022年度は、長引くコロナ禍の影響が残り、ロックダウンによる半導体不足や、木材価格の高騰、過去に類を見ない為替変動などにより、ものづくり産業にとっては非常に厳しい一年でした。そのような状況にあっても、300年以上にわたるグループの歴史を継続するために、会社のシステム基盤づくりにも注力し、将来の柱となる新しい事業にも挑戦してきました。

2023年度の重点方針の1つ目は「グループ各社の成長戦略の実現」です。将来を見据えてポートフォリオを見直し、「__違う発想がある」のスピリッツで10〜20年先に向け、新たな柱となるビジネスモデルを創っていきたいと考えています。2つ目は「従業員エンゲージメントの向上」です。会社は従業員がいなければ成り立ちません。小泉産業グループで働いていてよかったと思えるように、それぞれが最大限のパフォーマンスを出せる働き方の実現と推進を目指しています。具体的には、年6回の従業員エンゲージメント調査の実施結果を人事施策に反映し、グループ内公募制度の立ち上げや、ジョブリクエスト制度の確立、人事評価制度の見直し、健康経営などに取り組んでいきます。特に、グループ内公募制度やジョブリクエスト制度の仕組みを整えることは、個々のスキルや経験をより活かすことで、ヒューマンリソースの流出防止にもつながります。3つ目は「グループデータ連携基盤の構築」です。DXの推進により、各社の事業に則した基幹システムを構築し、セキュリティ対策も強化しています。各社の強みを合わせ、グループとしての経営を推進し、これまで以上に社会に貢献できる企業でありたいと考えています。

本年4月より、社長職を拝命しました。小泉産業グループの経営基盤を維持・継続し、次の世代へ引き継いでいくために成長させることが、私の使命であると考えています。グループ全社でのオールコイズミの力にどうぞご期待ください。

SDGsへの取り組み

サステナブルな社会の実現に向けグループを挙げて目標達成を目指す

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2022年度、小泉産業グループは、グループ共通で3つの取り組みを始めました。1つ目は、多様性の拡大と持続可能性向上です。人事制度改定に向けた準備に入り、グループの方向性を確認しました。2つ目は、カーボンニュートラルの実現に向け、グループ全体でのScope1～3全領域におけるGHG（温室効果ガス）排出量把握に着手しました。3つ目は、働きがいのある環境づくりを目的としたグループでの共通指標「エンプロイーエンゲージメント・パルスサーベイ」の導入です。各社単位でPDCAサイクルを回し、改善を図っていきます。

また各社においても、それぞれの事業領域におけるCSV（Creating Shared Value）視点でのテーマ設定を強化しました。グループSDGs委員会と各社SDGs委員会が足並みを揃えることで着実に成果をあげています。

今年度は、改めて2030年のゴールを明確にし、バックキャスティングを行うことで各年度の目標や取り組み計画の明確化を図っていきます。

グループ共通 2022年度の活動総括・2023年度の達成目標

テーマ	目標・指標		小泉産業株式会社	コイズミ照明株式会社	コイズミファニテック株式会社	株式会社ハローリビング	株式会社ホリウチ・トータルサービス	コイズミ物流株式会社
多様性の拡大 持続可能性向上	管理監督職の女性比率	2022総括	管理職の魅力を向上させる人事制度改定の検討に着手	照明アカデミーの教育体系の中でカリキュラム検討	ポジティブアクション視点で女性の役職任用を決定	女性のキャリア採用推進とパート従業員の正社員登用	女性総合職の採用	人材育成階層別カリキュラムの完成
		2023目標	管理職の魅力を向上させる人事制度改定の完了	研修制度・勉強会などの育成施策の調査設定	社員の女性比率を高め、キャリア自律を進める	女性管理職比率アップ	女性総合職の継続採用	管理監督職の女性比率アップ
カーボンニュートラル宣言 グリーン調達の実施	温室効果ガスの削減	2022総括	温室効果ガスScope1～3活動項目の洗い出し完了	温室効果ガスScope1～3排出量算出完了	温室効果ガスScope1～3活動項目の洗い出し完了	温室効果ガスScope1～3活動項目の洗い出し完了	温室効果ガスScope1～3活動項目の洗い出し完了	温室効果ガスScope1～3活動項目の洗い出し完了
		2023目標	デスクワーク系モデルケースの策定	商品の温室効果ガス排出量のデータベース化着手	温室効果ガスScope1～3排出量算出完了	温室効果ガスScope1～3排出量算出完了	エコドライブの推進と温室効果ガスScope1～3排出量算出完了	削減施策継続と温室効果ガスScope1～3排出量算出完了
働きがいのある環境づくり	エンゲージメント向上	2022総括	コミュニケーションフロアの新設や表彰制度など、ソフト・ハード面での提案、活動実施	キャリア面談と「トップと語る会」の実施	経営層との全社員面談を実施	経営層との全社員面談を実施	管理職との進捗面談を通じたコミュニケーションの活性化	「エンゲージメント向上研修」と「自己効力感研修」の実施
		2023目標	エンゲージメント値前年度比2ポイントアップ	社員コミュニケーション向上策の実施	健康経営優良法人認定の取得（プライト500挑戦）	エンゲージメント値前年度比2ポイントアップ	エンゲージメント値前年度比2ポイントアップ	管理監督者の「エンゲージメント向上研修」受講と課題改善

グループ各社の取り組み

小泉産業株式会社

雇用創出、起業、イノベーションを推進する組織づくりと新規事業テーマを確定

小泉産業株式会社
社長室 室長
甲斐 和弘

SDGsの目標8「働きがいも経済成長も」の活動として、新規事業創出に取り組んでいます。その一環として推進しているシニア向け分譲マンション事業（神戸ジェームス山 中楽坊）は、2023年5月に販売を開始し、販売サロンとモデルルームはハローリビングが対応、グループ力を発揮しました。また、AIコミュニケーションプラットフォーム事業は、各事業会社での応用展開の可能性を模索し、検討中です。昨年度はさらに2つの新規事業テーマを設定しました。継続的な情報収集と外部ブレーンとのオープンイノベーションにより事業化を目指します。

コイズミ照明株式会社

環境負荷軽減器具の設計開発推進

コイズミ照明株式会社
企画開発統括部 統括部長
光澤 啓逸

各種材料別のCO2削減効果のエビデンスを取得し、器具のサイズダウンや薄肉化による環境負荷軽減に取り組みました。特に間接照明については、従来比53%削減のサイズダウンを実現し、1台当たりのアルミ使用量を221g軽減、年間70,000台の販売実績において140トンのCO2削減を実現しました。また、リサイクル材の活用は真新しい材料を使用するよりも、材料生成時のCO2削減効果が望めます。今後もリサイクルアルミやアクリル材の採用を進めていきます。

コイズミファニテック株式会社

海外生産拠点地域の児童養護施設への学習デスク寄贈活動

コイズミファニテック株式会社
商品企画部 部長
池原 慶介

2011年度から国内の児童養護施設に学習デスクを寄贈してきましたが、2022年度は海外の協力会社様がある地域にも展開し、子どもたちに学習環境を提供しました。寄贈先であるマレーシア・イポーの児童養護施設にスタッフが伺い、子どもたちと一緒に組み立て作業を行いました。子どもたちが喜んでいる様子を目の当たりにしたスタッフたちは、事業の目的を再確認することができ、従業員エンゲージメント向上にもつながりました。今後も海外での寄贈活動を継続していきます。

株式会社ハローリビング

電気自動車用充電設備の設置

株式会社ハローリビング
関西営業部 ソリューション営業所
所長
京角 裕司

環境への配慮や地球温暖化の影響などにより、電気自動車市場が拡大しています。そこで、当社の強みである電気設備工事を通して、地域・社会・地球環境に貢献するべく、電気自動車用充電設備の設置に取り組んでいます。既存顧客である工務店様・オーナー様に対してPR活動を行い、2022年度は、戸建住宅に施工しました。

2030年度までに累計実績500基を目標として取り組みます。お客様の課題解決のみにとどまることなく、日々変化する施工方法に対応し、社会課題を意識した事業活動を推進してまいります。

株式会社ホリウチ・トータルサービス

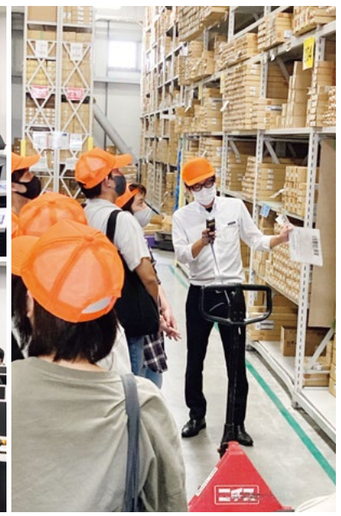
現場技術職の女性従業員の育成

株式会社ホリウチ・トータルサービス
営業企画室 室長
神成 洋二

男性スタッフの比率が高い業界の施工現場において、ホリウチ・トータルサービスでは、女性スタッフの増員・育成を進めています。働きやすい環境づくりと施工スタイル確立のため、意見交換の場やコミュニケーションを重視し、職場改善に取り組んでいます。女性スタッフが作業に参加することで、それまでとは違った目線での気づきや課題も明らかになり、お客様からの信頼も増しました。今後は、作業の効率化と精度向上とともに、誰にとっても働きやすい職場づくりを目指し、新たな案件の獲得と需要拡大を推進します。

コイズミ物流株式会社

産学連携活動による新規事業創出



コイズミ物流株式会社
経営管理本部 新規事業開発室
室長
兵庫 正能

社会的ニーズに合った新規事業を創出するため、次世代を担う大学生のアイデアをもとに事業化する取り組みを行っています。2022年度は、流通科学大学と大阪産業大学のゼミと共同研究を行い、大阪産業大学より提案された案件について2024年度の事業化を目指しています。2023年度は関東エリアの大学にも連携の輪を広げていきます。物流業界に対するイメージを少しでも良くしていくことで、業界として若手人材の確保にもつなげていきたいと考えています。

コイズミ照明株式会社

コイズミ照明株式会社
代表取締役社長

佐久間 晋

照明の力で新たな価値を提案するプロフェッショナル集団へ

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による半導体不足に対応すべく、立て直しに注力した一年でした。住宅事業においては第2四半期から回復し、店舗・施設事業においてはモノだけでなくコトを提案することにより、一年を通じて好調な業績を収めることができました。

2023年度は、第6次中期経営計画の最終年として、3つの変革の総仕上げの一年です。1つ目のDX（Digital Transformation）については、製造業として競争力を高めるために必要な新システムを設計し実装の段階に入りました。これにより、環境の変化やお客様のニーズに応える新たな製品やサービスを迅速に提示し、また、適切な在庫管理もかなう体制を整備します。2つ目のPX（Portfolio Transformation）については、当社が強みとする住宅分野をさらに伸ばしつつ、店舗・施設分野でも商品やサービスを強化しています。市場開発の専門部署を新設し、製販一体となった取り組みを進め実績を重ねてきました。また、近年は海外での実績も重ねていますが、来期以降はさらなるグローバル展開を視野に入れています。3つ目のSX（Sustainability Transformation）については、昨年、国際標準規格の「DALI」と赤外線アレイセンサを連動した照明制御など、省エネだけにとどまらない「空間品質の向上」と「意味的価値」の提案を行いました。これまでとは一線を画した照明の可能性が広がっています。

新商品開発においては、カーボンニュートラルに貢献するべく、ダウンサイジングや再生アルミニウムの使用を検討したり、まぶしさを抑え、快適な空間をつくる新商品開発などを積極的に進めています。それらの製品を実際に体感していただくために東京のショールーム、福岡のライブオフィスをリニューアルし、大阪のショールームは、実現したい空間を再現し、実験検証できるラボ施設として生まれ変わります。

こうしたさまざまな取り組みを実現するのは、人材に他なりません。社内研修制度を拡充し、ライティング5.0の時代に新たな価値を提案できるプロフェッショナルを育成しています。これからのコイズミ照明にぜひご期待ください。

福岡 博多の櫛田神社に隣接する「宮前迎賓館 灯明殿」。薄暮の時間帯は、建物の特徴的なシルエットと行灯のような穏やかなあかりが際立ちます

宮前迎賓館 灯明殿

結婚披露宴会場

所在地／福岡県福岡市博多区
事業主／石蔵酒造株式会社 様
設計＋制作／建築巧房 様

［照明設計 兼 開発営業窓口］
コイズミ照明株式会社 LCR福岡
藤嶋 純也

［照明設計］
コイズミ照明株式会社 LCR福岡
岡 美奈子

建物全体が行灯のように街を灯し、「博多の特別な日」を演出

ファーストコールで受注

2023年4月にグランドオープンした「宮前迎賓館 灯明殿」は、1200年以上にわたって福岡・博多を見守ってきた櫛田神社に隣接する結婚披露宴会場です。境内への敬意を表すものとして、神仏に祈りを捧げる“献灯”のかたちを建築の原型とした建物全体が、ひとつの灯明※となり、障子とガラスを組み合わせた大きな窓からもれる柔らかな光が周囲一帯を照らします。

「今回の受注は、建築設計を担当された建築巧房様が、コイズミ照明の福岡営業所に直接お声掛けくださったことがきっかけです。これまで当社が手掛けてきた式場の照明設計事例をご評価いただき、建築照明から、調光・調色・シーン設定等の制御までお任せいただきました」（藤嶋）

※灯明：神前や仏前に献じる灯火

変化に富んだ構造を現場から読み解く

「博多の特別な日」を彩る施設として、こだわりが詰め込まれた灯明殿。極めて複雑な構造を理解した上での照明計画は、難度の高いものでした。

「傾斜天井であったり、階高が各階で異なっていたりと、平面の図面のみで全体の構造を読み解くには限界がありました。設計の初

1. 伝統的な日本建築のデザインが取り入れられたバンケットルームでは、地元・大川の建具職人が装飾を手掛けたペンダントライトを活かすための照明計画を行いました。披露宴や顔合わせなど、使途やシーンによってあかりを変えられるよう設定。調光器やタブレットで簡単に操作が可能です
2. 正面の、大工製作による木彫アートと天井のアール形状の柔らかさが引き立つ照明計画。グレアレスのダウンライトでまぶしさを抑えつつ、机上を目立たせています
3. 高砂席のバックにある銀杏の葉のデザインが映えるよう、スポットライトで中央に光を集め、左右の明暗を分けています
4. 建具職人の製作したペンダントライトが映えるようスポットライトを設置し、明るさを確保したエレベーターホール

期段階は3DCGを用いてシミュレートしましたが、最も頼りになったのはやはり現場でした」（藤嶋）

「鉄骨を組んだ段階から竣工まで、現場に何度か足を運び、建物の規模感や実際の光の当たり方を自分の目で確かめながら計画しました。建物の中に入ってみると、想定よりも傾斜がきつく感じたり、建具や配管との兼ね合いで思うように照明器具を設置できないところがあったりと、いろいろな差異や発見があります。障子による光の拡散具合も、実際に目にすると想定とは異なりました。建築中の現場に何度も入らせていただけたことは、照明設計のあらゆる段階で助けになりました」（岡）

美しく調和した外観と機能性を両立

カギとなるのは、建物全体から発される美しく調和したあかり。障子からもれる柔らかな光の中にペンダントのきらめき感がアクセントとなる、メリハリのある仕上げです。これを実現するため、細部まで照明設計にこだわり抜きました。

「建物内の照明を障子を介して拡散させることで、建物全体が行灯のように美しく発光します。加えて、建物を縦に貫く吹き抜けの赤い壁を際立たせることで炎をイメージさせ、またペンダントのあかりがきらめきや揺らぎを演出しています。外に面した厨房やバックヤードなど裏方の部屋は、作業性の確保と外観とのバランスを両立させる色温度を選定。それにより、どこから見ても統一感のある、柔らかなあかりを感じていただけます」（岡）

「一方で室内のあかりは機能性を重視し、披露宴の各シーンに合わせてフレキシブルな光の演出を可能にしました。新郎新婦の入場や高砂席でのあいさつなど、シーンに応じた光の演出のプリセットを、シーン調光器を用いてワンタッチで呼び出すことができます。また、タブレット端末で、スポットライトの自動照射や調光・調色も可能にしました。それぞれのシーンに合わせた理想的な調光ができるかどうかも、私たちの提案次第です。お客様の理想とされるあかりの演出と、自分たちが計画したあかりが合致した瞬間は、やはりやりがいを感じます」（藤嶋）

5. ランダムに配置されたバルコニーの軒を下から照らすことで、行灯の光の中に明るさの変化やリズム感を表現しています
6. （写真右側の棟）建物を縦に貫く吹き抜けの赤い壁を、行灯の炎に見立てています

建築巧房様やお施主様と直接納得がいくまで調整を重ねた結果、「シーン調光器で簡単に調光ができて使いやすい」「他の現場でもぜひ使いたい」と、ご満足いただきました。

設計者2人で織り上げた和のあかり

特徴的かつ大型の建築である当プロジェクトには、岡・藤嶋2人の設計者としての知見を存分に活かしました。お客様との意思統一をスピーディーに進めるべく、窓口担当は藤嶋1人に集約。ご要望を社内へ持ち帰り、メインホールの設計は藤嶋、その他の空間の設計は岡が行いました。

「通常は1つの案件を1人の設計者が担当するため、自分の技量の中だけで完結してしまいがちです。しかし、今回は知見を持ち寄り、2つの目線から互いに学び合って取り組むことができました。2人とも、お客様の期待に応えたい気持ちが原動力となり、良い相乗効果が生まれました」（岡）

「お客様からも、現場に密着した細やかな対応を評価していただきました。オープン前に開催された内覧会では、福岡近郊の設計事務所様や内装業の方々からの反響も大きく、話題性のある建築となっています」（藤嶋）

2人の設計者が妥協なく高め合い、独創的な建築構造に向き合って完成した灯明殿。当社はこれからも、お客様から相談していただきやすい体制と真摯な対応を通じて、お客様の理想を実現してまいります。

Customer Voice

設計＋制作／建築巧房
副代表（当時）
木下 知様

照明のプロとしての視点や知識を発揮していただき、灯明殿の名に相応しい照明計画を実現することができました。天井高が異なることや、職人の技を取り入れた照明器具を多数採用したこと、障子越しの外観に均質なあかりが求められたこと。それらを統合し、機能性や経済性を成立させるため、設計の初期段階から協力を仰ぎました。特に、設計の核である献灯の表現については、障子からの距離感や照射方法等、コイズミ照明との照明計画だからこそ具現化することができました。

商品を際立たせつつ、床や什器に反射したリバウンド光で、ランダムに波打つルーバーを柔らかく浮かび上がらせています

器具を天井のルーバーに溶け込ませるための最適解が「フィクスドダウンライト」でした

ライティング調整で鏡面の什器を当て込むことで反射した光が天井面にも回り、よりやわらかい雲のような空間へ

ジェイアール 名古屋タカシマヤ 7階 紳士靴売場

百貨店

所在地／愛知県名古屋市中村区

事業主／株式会社ジェイアール東海高島屋 様

設計／高島屋スペースクリエイツ株式会社 馬場 智嘉 様

［照明設計］
コイズミ照明株式会社
桂 響子

［開発営業］
コイズミ照明株式会社
保井 綾菜

お客様の熱意と共鳴し、「理想の空間」を創出

積み重ねた信頼がメインエリアの受注に

2023年、大きく生まれ変わった「ジェイアール名古屋タカシマヤ 7階 紳士靴売場」。数年をかけて行われるフロアの改装プロジェクトの中で、最も大きな改装です。その中でも今回の靴売場は、先行オープンも行われた注目度の高いエリアです。

「今回の改装は、ジェイアール名古屋タカシマヤ様において当社が携わった4つ目の改装です。これまで、9階のリビング、10階のゴルフウェア、そして11階のランドセルと、それぞれの売り場の照明設計をお任せいただいていました。自信を持っておすすめできる新商品を、活用方法と併せていち早くご案内し続けてきたこと、そしてお客様の目指す空間の目的に対して、桂が照明設計の力で応えてきた実績が積み重なり、今回のエリアをお任せいただけることになりました」（保井）

空間と一体化し、商品を引き立てる光

7階フロアの全面リニューアルでは、「多様性があり変化を積極的に受け入れるZ世代」をターゲットとして、従来の売り場にとらわれない「最新と最旬を発見できる環境」が目指されていました。

「ご依頼いただいた靴売場の内装デザインは、従来のメンズフロアのようなシャープさ・重厚感を脱した、軽やかで柔らかな印象でした。一番の魅せ場となるのは、天井に広がる波型のルーバーです。この象徴的なデザインを魅せつつ、商品をしっかりと引き立てたい。これが私たちの課題でした」（保井）

「照明計画としては、ルーバー自体には直接光を当てず、リバウンド光によって浮かび上がらせる演出が最も適していると考えました。しかし、それをかなえつつ商品をしっかりと引き立てるにはどのような手法が適しているか、大いに悩みました。雲のようにランダムな柔らかさを持つ天井は、4種類の波型ルーバーが順に展開されることで構成されています。これらに対して断面から検証を行い、什器へ光を照射する際にルーバーに蹴られることなく、かつルーバーの高さ内に納まるような最適な器具を検討したところ、発売間もない「X-Pro フィクスドダウンライト」にたどり着きました。ルーバー天井のエリアは、この器具のみを用いて極力シンプルに見せつつ、配光角の使い分けで商品の魅せ場を計画しています。そうすることで、空間と器具を一体化させ、この売り場のニュートラルな世界観を照明でも表現することを目指しました」（桂）

お客様の理想の空間を実現できる喜び

今回の照明計画は、お客様からも高い評価をいただきました。

「照明計画にあたり、クライアントの馬場様に各フロアをご案内いただいた際は、全館を通した空間の考え方や馬場様の情熱をお話しいただき、感銘を受けました。想いの詰まったこのデザインと空間づくりに必ず応えたいと、いっそう身が引き締まりました」（桂）

「馬場様からは、『お店の重要な入り口となり、集客に直結するのは照明の力だと思います。すてきな計画をありがとうございます』とのうれしいお言葉を頂戴しました」（保井）

今回の案件を通して、コイズミの商品力があるからこそ、それを活かした提案・設計が可能となり、お客様から喜びの声を頂くことができるのだと強く感じています。お客様とチームとなってプロジェクトに携わり、共に理想の空間を実現できることは、私たちにとって何ものにも代え難い喜びです。

Customer Voice

高島屋スペースクリエイツ
株式会社
クリエイティブソリューション部
馬場 智嘉様

今回の「7階 紳士靴売場」は、ジェイアール名古屋タカシマヤにとってターニングポイントの一つともいえる重要な改装でした。コイズミ照明の器具は、機能はもちろんプロダクトとしてのディテールにもこだわりを感じています。今回の器具も、内装デザインとの相性が非常に良く、意匠面でもベストな提案をいただきました。他の器具との照度バランスも良く、満足しています。素晴らしい照明計画をありがとうございました。

コイズミ
ファニテック
株式会社

コイズミファニテック株式会社
代表取締役社長

若林 俊宏

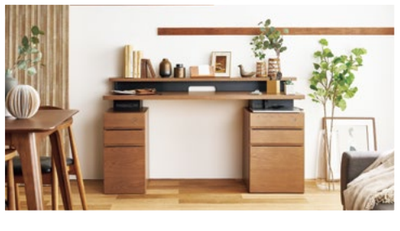
「シン・価値創造」を目指し、新たな挑戦を続ける

コイズミファニテックは、事業を取り巻くさまざまな内外環境変化に適応すべく、常に「会社をアップデート」する取り組みを進めています。2022年度は、SDGsの取り組み活動を基軸とし、事業ポートフォリオの見直し＆再設計を重点戦略課題の1つとして掲げました。具体的には“学び”のビジネスにおけるお客様とのコミュニケーションや接点づくりをさらに拡充するため、幼児・未就学児市場における市場を開拓し、「プレキッズ事業」として立ち上げました。

また、“眠り”のビジネスにおける新たな取り組みを「AQUA-REST事業」として立ち上げ、エンドユーザーの多様なニーズに応えられるよう、専用ECサイトを新設、SNSを通じたブランディング・販売活動も開始しました。2023年度は「学び」と「眠り」の融合で家族の成長とともにあり続けるコイズミファニテックとして、学習家具事業、プレキッズ事業に加え、AQUA-REST事業を、眠りのソリューションを提供する「Sleep Tech事業」としてアップデートするなど、「ビジネスモデル変革」に取り組みます。具体的には、SDGsに貢献する新商品の開発、自社ECサイトや越境ECなどの新販売チャネルの開拓に挑戦します。その他、価値創造に集中する「マーケティング変革」、社会貢献と経営体質強化を行う「経営システム変革」に取り組みます。その前提となる人的資本の視点で、従業員のエンゲージメントを高めるための人事制度や働き方改革、健康経営を推進し、少数精鋭の社員全員が、自己変革で「シン・価値創造」に取り組む環境を整備していきます。

SDGsの具体的活動としては、前年度に引き続き海外の児童養護施設へのデスク寄贈活動を実施し、国内だけでなく世界の子どもたちの未来を育む役割の一端を担えるよう継続して活動していきます。それぞれの取り組みの結果、より一層お客様から愛され信頼されるよう、ブランド価値の新創造を行ってまいります。

ご要望の多かったセミオーダーデスクとして新たにラインアップした「NESTIS（ネスティス）」。天板と引き出しの間にスペースを設け浮遊感を持たせたデザイン。こだわりの空間づくりに合わせてサイズオーダーに対応しています



新たな発想のラインアップでお客様の選択肢を広げたい

［商品開発（書斎家具）］
コイズミファニテック株式会社
坂口 勝

［商品開発（学習家具）］
コイズミファニテック株式会社
徳尾野 仁

2023年度、コイズミファニテックは3つの新ラインアップを発表しました。従来の「お客様に満足いただける商品を製造し、適正な価格で販売する」という基本姿勢は変えることなく、お客様の新たなニーズに合わせ、市場になかった機能性やデザインを提案し、従来通り品質にもこだわった商品です。

1つ目は、テレワークの執務空間にこだわりたいというお客様のご要望に応える書斎デスク「NESTIS（ネスティス）」です。セミオーダーが可能で、天板の幅と奥行きをそれぞれ3パターンから選択でき、天板の素材も2種類ご用意しました。さらに1cm単位で調整可能な天板のサイズオーダーを実現するため、新たに国内での生産体制も構築しました。「昨年度に開発、発売した昇降デスクにヒントを得て、天板と引き出しの間にノートパソコンなどを置いて充電できるスペースを設けました。そうすることで天板に浮遊感を持たせ、書斎デスクにありがちな重厚感を払拭し機能性とデザインの特徴を両立させました」（坂口）

安定感を重視し、横揺れを抑えたユニットシェルフタイプの「WaLLBE（ウォルビー）」。組み合わせを自由に選べ、ワークスペースと収納スペースをまとめることができます

需要の高いランドセルラックと、デスクを組み合わせた新シリーズ「STEP UP DESK M」。学習家具デビューに最適な一台です

「__違う発想」でより多くのお客様のニーズに応える

2つ目は、棚とデスクを組み合わせられる「WaLLBE（ウォルビー）」です。強度面にこだわり、横揺れを抑えています。「一般的にユニットシェルフは横揺れするものが多いので、デスクを組み合わせると、作業時に揺れが気になってしまうという懸念がありましたが、当社製は独自の製品規格に基づき安定感にこだわった構造を実現できましたので、その心配がありません。ぜひ店頭で確かめていただきたいです」（坂口）

3つ目は、当社が最も得意とする組み替え型の学習デスクの新シリーズです。従来品の多くは、デスク・シェルフ・ワゴンの組み合わせで販売していましたが、デスクと、需要の高いランドセルラックの組み合わせで販売し、ワゴンは別売りで必要に応じて選んでいただけるようにしました。「初めて学習デスクを購入されるお客様が、まずは最低限必要とされるものの組み合わせを揃えて組み替えをしていただけるようにしました。当社が開発してきた組み替えデスクの発想をさらに発展させ、選択肢の幅を広げられるような、付加価値のある商品開発を意識しています」（徳尾野）

お客様の暮らしに寄り添い、発想をカタチにしてきたコイズミファニテック。今後も「__違う発想」にこだわり、市場に新たな価値を提供してまいります。

Customer Voice

株式会社ナフコ
商品本部 家具部バイヤー
先坊 典恭様

コイズミデスクを選ばれるお客様の中には、親子使いやきょうだい使いで購入される方も多くいらっしゃいます。“丈夫で長く使えて飽きのこないデザイン”や“機能性が優れている”ところが特に決め手となっており、バイヤーとしても、自信を持っておすすめできます。店頭で実物を確かめて、安心してご購入いただけるよう、これからもお客様の生の声を共有し、ぜひ商品開発に活かしてほしいと思います。

株式会社ハローリビング

株式会社ハローリビング
代表取締役社長

上原 正人

提供価値を増やし、飛躍的な成長を実現する正念場の一年に

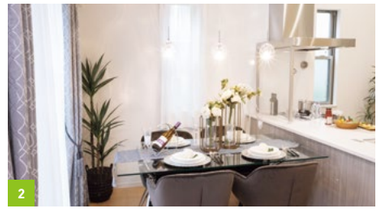
ハローリビングは、今中期経営計画において経営基盤の持続的安定を図るため、3つの変革を進めています。1つ目は「売り方・売り先を変える」です。住宅市場に偏重しているポートフォリオを改善するため、引き続き当社の価値を認めてくださるお客様に注力しつつ、5〜10年後を見据え、非住宅分野にも注力していきたいと考えています。

2つ目は「売るモノ・提供価値を変える」です。売るモノは、小泉産業グループの信用基盤のもと積極的に取引先を開拓し、幅広い商材を揃えてきました。売るモノと売り先（市場）をそれぞれ増やすことで、相乗効果による利益を生み出していきます。提供価値については、施工品質をさらに高めるために施工マニュアルをブラッシュアップし、全国の施工協力会社様を対象とした「施工品質向上研修」を実施しています。協力会社様との連携を強化し、きめ細やかな施工管理で「施工ならハローリビング」と言われる存在を追求します。従来の物販に伴う施工だけでなく、電気配線の施工単体での請負実績もできました。インテリアコーディネートの業務受託の体制も強化し、社内はもちろん外部にもインテリアコーディネートができるパートナーを増やし、全国で物販にとどまらない付加価値のある提案を行っています。さらに、ニーズが高まりつつあるリフォーム案件の窓口も開設しました。お客様のどんなニーズにも応えられる会社へと変貌を遂げつつあります。

3つ目は「体質・風土を変える」です。評価制度を見直したほか、コミュニケーションの密度を高め、社員がお互いを賞賛し高め合う風土を醸成しています。また業務改革により無駄をなくす体質も定着しました。

2023年度は、これまで2年間の取り組みを結実させる正念場だと考えています。これまで積み重ねてきた実績をもとに、ハローリビングにしかできない価値ある提案をしていきます。社員に学ぶ機会を提供し、資格取得を奨励するなど社員一人ひとりの成長を後押しすることで、成長の基盤を確立し、一流の仕事ができる会社を目指します。

1


2

3

4

1,2. お客様に購入後の暮らしをイメージしていただけるよう、理想的でありながら身近に感じられるコーディネートを心掛けています
3. 照明器具のご説明をしながら、阪急阪神不動産㈱の小村様とイメージをすり合わせていきます
4.「ジオガーデン西宮 浜甲子園」の街並みの一部。建物ごとの個性と周囲に調和するデザインで、統一感のある美しい景観を生み出しています

総合力を活かしたインテリアコーディネート

［インテリアコーディネート］
株式会社ハローリビング

池元 抽紀路

ハローリビングでは、インテリア関連商品と住宅設備商品の販売から施工まで、空間づくりを一気通貫で行うワンストップ・ソリューションを提供しています。最近ではソフト面も強化し、インテリアコーディネートのサービスにも注力しています。

阪急阪神不動産㈱様の新築分譲住宅である「ジオガーデン西宮 浜甲子園」では、同社からのインテリアコーディネートを初めて受注しました。従来ハローリビングは、同社のモデルハウスの家具や小物などの展示物を次のモデルハウスに移設する作業を請け負っていましたが、照明器具を得意とする小泉産業グループであること、また池元の提案力が評価され、照明も含めたインテリアコーディネートを受託しました。

「移設作業のみを請け負っていたときも、ただ単に展示物を移設するだけでなく、テーブルコーディネートに季節感のあるアレンジを加えるなど、お部屋をより魅力的に見せられるよう、ひと工夫していました」（池元）

モデルハウスのコーディネートは、建物を含んだ街並みのコンセプトを反映しつつ、これから始まる暮らしへの期待が高揚するような雰囲気、かつ、手が届きそうな現実味も求められます。

「クライアントとしっかりコミュニケーションを重ねながら、モデルハウスで表現したい世界観をくみ取り、具現化するのが私の仕事。あくまでも主役は“家”ですから、過度に飾りすぎない自然なコーディネートを心掛けています。ハローリビングには社内に照明や住宅機器に長けたエキスパートが揃っているので、総合力を活かしたコーディネートを提案できる強みがあります」（池元）

現在ハローリビングは、インテリア商品、照明、住宅設備まで幅広い商材を扱い、インテリアコーディネートもご提案できる総合力を備えています。モデルルームに限らず、新築の住宅・施設やリフォームまで、空間づくりの全てをお任せください。

モデルハウスのインテリアコーディネートで新築分譲住宅の販売をサポート

Customer Voice

阪急阪神不動産株式会社
宅地戸建事業部

小村 勝様

“ハイセンスでありながら手が届くインテリア”というモデルハウスのコンセプトを見事に形にしていただきました。モデルハウスを購入されたお客様はコーディネートが決め手の一つとなり、家具付きでご契約されたほどです。照明器具に関しても、ターゲット層のお客様が求める華やかな雰囲気を具現化してくださり、総合的に満足しています。次のモデルハウスもハローリビングさんに依頼する予定です。

株式会社
ホリウチ・
トータルサービス

株式会社ホリウチ・トータルサービス
代表取締役社長

熊野 裕章

高い技術力と誠実な対応で、お客様に感動を提供できるトータルソリューションを

ホリウチ・トータルサービスは、ホテル、商環境、オフィスをメインとして、主に家具や什器などの搬入・設置サービスを行っています。ここ数年は、ホテル開業に伴うFF&E（家具・什器・備品）、OS＆E（消耗備品）の搬入管理業務の実績を重ね、2022年度は国内の新規ラグジュアリーホテルの搬入管理業務を数多く受注しました。現場主義に基づく柔軟な対応力、作業品質の追求姿勢を認めていただき、お取引先を拡大しています。ホテル以外の分野においても、大手ドラッグストアの数年間にわたる全国規模の改装プロジェクトの取りまとめ業務や、大学のキャンパスリニューアルに伴う搬入管理業務など、それぞれの分野に合わせたご要望にお応えしています。

こうした業務を支えているのは、社員の力です。最も重視しているのは現場での実践教育ですが、安全パトロールと安全講習会も継続して実施しています。今後は協力会社様のスタッフにも教育機会を提供し、より一層現場の安全と品質を高めていきたいと考えています。われわれの現場は“安全第一”です。今期も「安全管理の強化」を徹底し、全従業員が安全に対する意識を高めるための取り組みを続けていきます。

組織体制についても、社員同士のコミュニケーションを深め、機動力を高めることを目的として、東京都内の営業所を再編しました。また、現場リーダー、管理職の育成にも注力し、社員の層を厚く強化しています。成長著しい社員一人一人の「個の力」を結集し、お客様の多様なニーズに応えられる会社へと進化していきます。

SDGsに対しても積極的な取り組みを進めてきました。その一つが、ホテルのマットレス入れ替えに伴う廃棄マットレスの再資源化です。リサイクルシステムの処理フローを確立し、複数のベッドメーカー様からご賛同いただき、少しずつ実績も生まれています。そのほか、梱包材のリサイクル促進、現場での女性スタッフ活躍推進にも取り組んでいます。

今年度も社員が力を合わせて進化を重ね、お客様に感動していただけるサービスを提供してまいります。

鹿児島市内はもちろん市外へのアクセスも良好な「シェラトン鹿児島」。レジャーやビジネスに最適なロケーションに位置しています。ホリウチ・トータルサービスは全ての家具、什器、備品の搬入・設置と全体管理を行いました

ホテルの FF&E、OS&E 搬入設置一括管理

［現場リーダー］
株式会社ホリウチ・トータルサービス
山崎 直樹

［現場サブリーダー］
株式会社ホリウチ・トータルサービス
宮下 尚也

インバウンドが急速に回復する中、富裕層の外国人観光客のニーズに応えるため、全国各地で高級ホテルの開業が相次いでいます。2023年5月には、鹿児島市に県内初の外資系ホテル「シェラトン鹿児島」がオープンしました。ホリウチ・トータルサービスでは、全国のラグジュアリーホテル開業に伴うFF&E（家具・什器・備品）、OS&E（消耗備品）の搬入設置を数多く請け負っていますが、「シェラトン鹿児島」においても、これまでの実績を評価いただき、FF&E、OS&Eの搬入設置一括管理をご依頼いただきました。

「半年前から現地でリサーチを行い、地元の協力会社様とタッグを組んで万全の体制を構築し念入りに準備を進めました。通常、FF&EはC工事（建築工事・空調設備等完了後）工程での作業ですが、今回はA工事（建物の躯体工事）進行下での作業となり、工事関係の搬入が終了した夕方以降、短時間での搬入・設置に対応する必要がありました」（山崎）

「暗い時間帯になると、まだ照明がついていないエリアでの作業は、安全面からも品質を確保する上でも難しくなります。そのため、大型の家具などはあらかじめ廊下に搬入しておいて、早朝から設置することで間に合わせました。イレギュラーな対応でしたが、制約条件の中でいかにやり遂げるかも、私たちの腕の見せどころです。スタッフ全員が一体となって作業を進めました」（宮下）

現場リーダーとして統括管理を担当した山崎は、作業スタッフとしても経験を重ねています。現場を知っているからこそ、作業スタッフに的確な指示ができ、共感に基づくチームビルディングができました。また、今回の取り組みでは地元の協力会社様との関係を構築できたことも大きな収穫でした。

「現場での経験値を積んだからこそ身についた対応力が、イレギュラーな場面にも役立ちます。自分のさじ加減が現場の効率を左右するため、やりがいのある仕事ですね。若手社員にもこのノウハウを伝え、現場リーダーを担える人材の層を厚くしていくことも役割だと思っています」（山崎）

厳しい制約下で現場をまとめ上げ、安全と品質を守る現場リーダーたちが、ホテルの開業を縁の下で支えています。

スタッフをまとめ上げ 現場の安全と品質、納期を守り抜く

OS&E（消耗備品）の全体管理、配置も担当。細かな作業も一つ一つ確実・丁寧に行っていきます

Customer Voice

南国殖産株式会社
都市開発事業部 都市開発課
川崎 誠様

九州地区はもちろん、全国的にも非常に注目度の高い案件であり、スケジュールも非常にタイトだったのでパートナー選びは重要でした。ホリウチ・トータルサービスは、建築本体工事と並行するイレギュラーな作業であったにもかかわらず、元請けをはじめ各業者との搬入管理を見事に調整いただき、予定通りに完納してくださいました。ホリウチの持つ人材ネットワークや連携力、経験・ノウハウは頼りになります。おかげさまで無事にオープン日を迎えられ、お客様からの評判も上々です。

コイズミ物流
株式会社

コイズミ物流株式会社
代表取締役社長

八田 康

環境の変化に適応して進化し、自らの手で物流の未来をつくる

コイズミ物流は、お客様・協力会社様との「物流版三方よし」の実現のため、新たな取り組みを進めています。近年は3PL事業の拡大に注力し、協力会社様の強みを組み合わせた全国輸配送ネットワークを確立し、外販とEC専用拠点を開設してきました。2024年4月に時間外労働の上限規制が物流業界にも適用され、長距離での運行が難しくなるため、中継地点となる拠点を増やすニーズが生まれています。そうした変化にしっかり応えてまいります。2022年7月には、埼玉県春日部市に首都圏電材プラットフォームを開設し、電材メーカー商品の共同配送を始めました。ドライバーの人手不足やエネルギーコストの高騰などの課題を解決し、トラックの積載率向上により利益面で効果を出し、CO2排出量削減にも寄与しています。今後このスキームを近畿エリアにも展開し、電材以外の商品にも取り組む予定です。

2023年度は、以上の体制強化を引き続き進めるとともに、新物流情報システムの構築を進め、増加するEC対応へのバージョンアップやシステム活用による省人化を図り、社員が社会やお客様の課題を解決するための新しい価値を生み出すことに注力できる体制へとつなげていきます。

また同時に、社員の教育基盤も再構築し、全社員がそれぞれの立場で物流のプロフェッショナルとして能動的に動くことのできる強い組織を目指します。経営ビジョンも改め、「未来に挑戦するロジスティクスカンパニーになる」から、「未来をつくるロジスティクスカンパニーになる」に改めました。未来は自らつくり出すべきものです。当社だけで実現できないことも、他社との業務提携で新たな可能性を広げられるでしょう。また、昨年度から取り組んでいる産学連携により大学生の新鮮な発想を取り入れた新規事業も検討しています。激変する環境下で社員一人一人が視野を広げ、自らを進化させながら、仕事を楽しんでほしいと願っています。コイズミ物流がつくる未来にぜひご注目ください。

1

2

1. 春日部に開設した首都圏電材プラットフォーム。十分なスペースで仕分けが行われています
2. ピッキングシステムを導入し、仕分け作業の効率化を推進

2024年問題解消を目指す電材プラットフォーム開設

［プロジェクト担当］
コイズミ物流株式会社

馬場 信吾

物流業界は慢性的にドライバーの人手不足や高齢化という課題を抱えています。さらに2024年4月には、労働基準法改正による残業時間の上限規制が物流業界にも適用されるため、従来通りの配送サービスを維持することがさらに難しくなると言われています。とりわけ電材業界に関しては、約10年前から商流と物流が分離し代理店を経由せずにメーカーから現場に直送することが増えたため、少量多頻度化で物流効率が低下しています。

コイズミ物流では、こうした課題解決のためにプロジェクトを立ち上げ、協力会社様でもあり、東京・埼玉・神奈川県内で他社の電材商品も扱う東京ユニオン物流株式会社様に共同配送を打診、2022年7月、春日部に首都圏電材プラットフォームを開設しました。

「電材業界の配送ではトラック1台当たりの積載率が下がっていたため、人手不足とコスト高騰が大きな課題になっていました。さらに燃料高騰も追い打ちをかけ、このままでは立ち行かなくなるという危機感が高まっていました。その解決策の一つが、同じエリアを運行している他の物流会社との共同配送です。物流の理想である一納品一便化を実現しました。トラックの台数を削減し走行距離も短縮されたことで効率が向上し、朝早く夜遅いという業界の特性がありながら、ドライバーの残業規制をクリアできるようになりました。また、SDGsの観点からもトラックの台数を削減したことでCO2の排出量を年間483トン削減できる見込みです」（馬場）

また、倉庫内作業においても、仕分けのピッキングシステムを導入することで品質とスピードが向上。作業を簡素化し省人化しました。

「一拠点に集約することにより、共同配送のみならず倉庫内作業の効率化も実現し、労働環境が改善されました。倉庫内作業の求人に対し応募者数も増えています。体制を充実させたことで、2024年以降も安定した物流サービスを維持できる目処が立ちました」（馬場）

現在、この事例を全国的に展開し、まずは近畿エリアに電材プラットフォームを開設する準備を進めています。物流業界が抱える課題解決とお客様のニーズに応えるため、コイズミ物流の挑戦はこれからも続きます。

共同配送による一納品一便化で物流版三方よしを未来につなげる

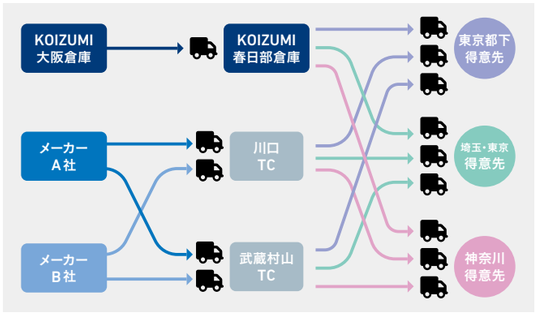
Customer Voice

東京ユニオン物流株式会社
取締役社長

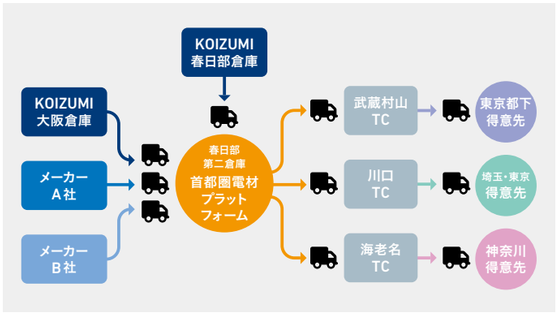
川﨑 和夫様

首都圏電材プラットフォームの開設と共同配送の実現により、ドライバーの人手不足による長時間労働の解決に大きな一歩を踏み出すことができました。まだ一都二県ではありますが、先駆けとしてさらにこの事例をブラッシュアップさせ、コイズミ物流さんのネットワークで全国に展開し、物流業界全体に寄与する取り組みにしていくことを期待しています。

従来の配送サービス



首都圏電材プラットフォームの配送サービス



GROUP TOPICS

小泉産業グループの経営の根幹は「ヒト」です。
2022年度も、社内外で関わるさまざまな「ヒト」に向けた活動を展開しました。

1 次世代をになう「ヒト」のために

コロナ禍を経て3年ぶりに組み立て訪問を実施。組み立て作業の後は“SDGsかるた”で交流を深めました（2022年度）

デスク・コタツ寄贈活動

モノを送るだけではない、ヒトを通じて心も贈る

東日本大震災の復興支援として2011年度から始まったこの活動は、2022年度で12年目を迎えました。これまでに合計37府県、245施設に、デスク590台、コタツ348台を寄贈しています。この活動で大切にしているのは「単にモノを寄贈するだけでなく、ヒトを通じて心も贈る」こと。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でかなわなかった年もありましたが「社員が寄贈先を訪問し、子どもたちと一緒に組み立てを行う」活動を大切にしています。

寄贈先の施設からは「さまざまな事情がある子どもたちにとって、組み立て交流の場は新鮮で貴重な経験になりました」「このデスクが“自分だけの場所”となり、整理整頓はもちろん、大切な相棒になってくれそうです」「自分で組み立てた机なので意欲的に学習に励んでくれています」など、うれしいお声をいただいています。

参加した社員からも「子どもたちとコミュニケーションを取りながらの組み立て作業は、普段の業務では得られない特別な経験になった」と、当社にとっても有意義な活動になっています。また、22年度は、SDGs活動の一環から、“SDGsかるた”も実施。17のゴール目標について、楽しく学んでもらえる機会となりました。今後も、全都道府県での実施を目標に、活動を継続していきます。

訪問できなかった施設では、子どもたちがスタッフの方々と一緒に組み立てを行ってくれました

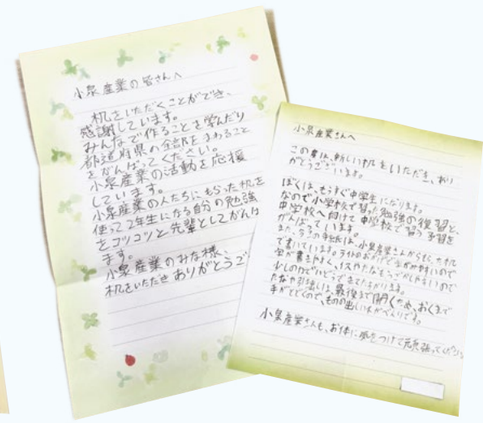
数字でみるデスク・コタツ寄贈活動

回	実施地区	府県数	寄贈施設数	参加社員数	寄贈台数（デスク）	寄贈台数（コタツ）	実施年度・期間	
1	東北	3	13	2	40	ー	2011	
2	大阪	1	16	7	50	ー	2012	
3	九州	8	24	24	50	ー	2013	
4	中部	5	19	25	50	ー	2014	
5	栃木	1	8	18	50	30	2015	
6	中国	5	30	32	50	50	2016	3〜4月（春休み期間）
7	四国	4	17	17	50	50	2017	
8	埼玉	1	22	21	50	50	2018	
9	滋賀・奈良・和歌山	3	17	0	50	50	2019	
10	兵庫・京都	2	34	0	60	50	2020	
11	静岡・長野	2	19	0	50	42	2021	
12	群馬・茨城	2	16	6	40	26	2022	
	合　計	**37**	**235**	**152**	**590**	**348**		

2022年度

子どもたちは
それぞれ“自分が使う
デスクと椅子”を
組み立てていきます

2022年度



施設の
子どもたちから届いた
心温まるお礼の
色紙とお手紙

2 ともに働く「ヒト」のために

コイズミファニテックが“健康経営優良法人”に認定

健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実行する

コイズミファニテックでは、今期の重点方針の中の一つ、『EX戦略（エンプロイー・エクスペリエンス）』で、『従業員の健康管理を経営的視点で考え、戦略的に実行する』ことを掲げています。

今年3月8日、「健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）」に企業として認定されました。まずは従業員のこころとからだの健康がなければ、企業も存続できない、という考えのもと、健康推進委員会が中心となってさまざまな取り組みを始めています。

野菜摂取レベルが測定できるベジチェック企画

初心者でも参加できる自由参加型のハイキング企画

小泉産業本社ビルにコミュニケーションフロアがオープン

全従業員が利用可能な多機能空間が完成

第6次中期経営方針の中で重点方針の一つである「組織風土の変革」に関連し、小泉産業本社ビルの4階に、新たにコミュニケーションフロアが開設されました。

オフィス環境を整備することにより、組織や役職などの壁を取り払い、グループ各社間や、部署内外との闊達なコミュニケーションを促進させ、社員のエンゲージメント向上に貢献することを目的としています。

Web会議など少人数利用での個室や、業務に集中するための個人ブースが設けられ、また、休憩時の食事スペースとしても、明るくリラックスできるようにと、ビル全体の最適化を考慮した新しい空間となりました。

グループの総合力を活かした空間が完成しました。

■照明器具選定、照明設計（照明制御システムTRee導入）：
コイズミ照明㈱
■照明・プロジェクター等の施工：
㈱ハローリビング
■搬入、撤去：
㈱ホリウチ・トータルサービス

プロジェクトコンセプトは“Patchwork”

コイズミのルーツである近江商人の麻布行商から着想を得た、“Patchwork”や“紡ぎ”といった、布に関連したコンセプトで空間を構築。それぞれ違った色や形、素材の布が寄り集まってひとつの個性的な“柄”となるパッチワークのように、オフィスも、多様なヒト・モノ・情報が寄り集まって構成されています。それぞれの個性や価値観が集まり、組織として新たな“柄”が生まれるオフィスを目指します。

3 社会でつながる「ヒト」のために

AED講習会

安心に暮らせる社会のために休日の社屋を有効活用

「使用していない休日の社屋を、社会のために役立てられないか」との発想で、2009年度から、NPO法人大阪ライフサポート協会主催の一般市民向けAED講習会に、小泉産業本社（大阪市）の会議室を会場として提供しています。現在はニーズも鑑み、休日だけでなく平日にも提供しています。受講者の中には、実際に救急の現場に遭遇し、学んだスキルを活かして人命救助を行った方もいらっしゃいます。

地域清掃活動

良き企業市民として、お世話になっている地域社会に貢献

全国各地の事業所で、普段お世話になっている地域社会への感謝の気持ちを込め、清掃活動を行っています。2010年から全国展開した活動は、毎年、高い実施率を保っています。参加した社員からは「1日のスタートにすがすがしい気持ちになれた」、各事業所の担当者からは「年々地域のゴミが減っており、自分自身の環境への意識も高まった」といった声が上がるなど、社内にも良い影響を及ぼしています。

使用済み切手寄贈活動

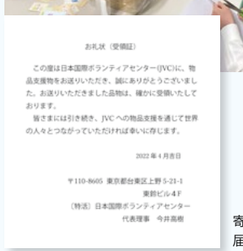
普段の心掛けが、世界の誰かの役に立つ地道な社会活動

収集したたくさんの切手

2009年度から、全国の事業所から寄せられた使用済み切手を、ボランティア活動の資金源としてNPO法人などの団体に寄贈しています。

途上国の女性に関する諸課題の改善や、子どもたちの健康と教育に関する支援など、さまざまな用途で活用されています。たとえば、使用済み切手1kgでは、紛争で学校に通えなかった子ども3人に教材と学用品を届けることができます。

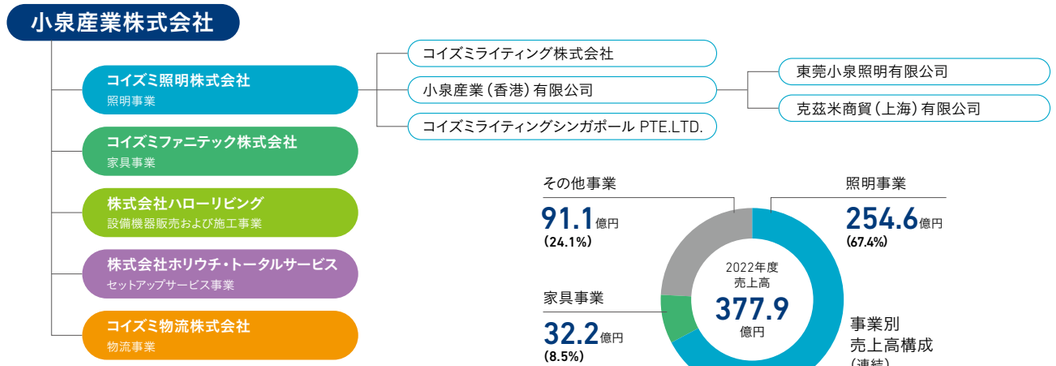
小泉産業グループではこれまでの14年間で、約33kgの使用済み切手を集め、2022年度は4.5kg分を寄贈いたしました。

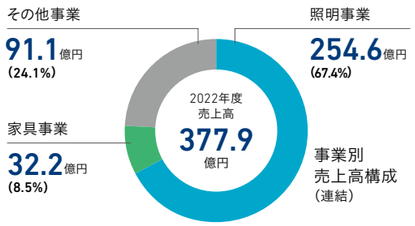


寄贈先から届いたお礼状

小泉産業グループ 概要

グループの体制



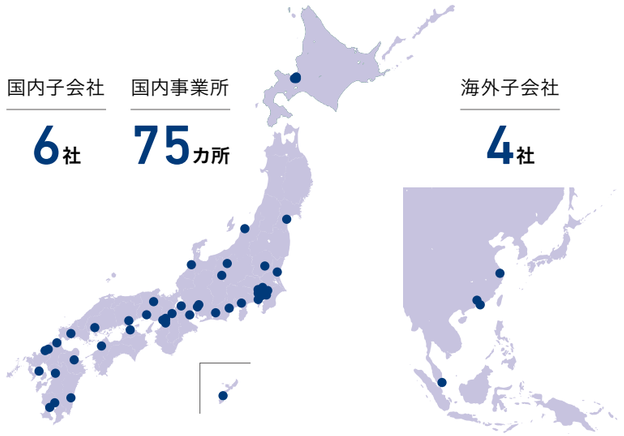


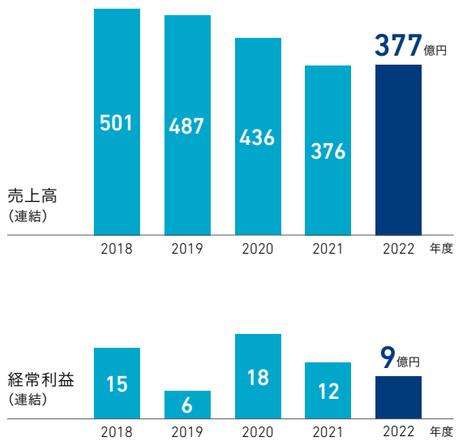
国内ネットワークと海外ネットワーク

国内子会社
6社

国内事業所
75カ所

海外子会社
4社





グループの理念

社是	人格の育成向上
グループ経営理念	新しい着眼と独自の発想で新たな価値を創造し人と社会に夢と感動をつくり出します
グループ行動理念	● 積極果敢にチャレンジし、目標を必達します ● 自由活発なコミュニケーションを行い、明るく、元気に、同志とともに進みます ● 互いに学び、人間力を高めます ● 現場、現物、現象を基本に、お客様の課題を解決します ● 三方よしの精神で、信用と信頼の向上を図ります ● 社会規範を遵守し、地域、社会、地球環境に貢献します
グループビジョン	私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する愛される“価値創造の専門集団”をめざします

グループ各社情報

小泉産業株式会社

本社所在地	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7
代表者	代表取締役会長　権藤 浩二 代表取締役社長　矢本 博康
創業	1716年（享保元年）
設立	1943年6月25日
資本金	1,575百万円
従業員（2023年4月現在）	グループ合計　1,445名 単体　61名
事業内容	持株会社
子会社	10社

会社名	本社所在地	代表者	従業員	事業内容
コイズミ照明株式会社	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7	代表取締役社長 佐久間 晋	624名	照明器具の企画、開発、製造、販売
コイズミライティング株式会社	〒529-1512 滋賀県東近江市大塚町1289-2	代表取締役社長 宇野 正文	181名	照明器具の開発、製造
小泉産業（香港）有限公司	Units A-B, 26th Floor, 8 Hart Avenue, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong	董事長 杉本 健	15名	照明器具の企画、販売 他
東莞小泉照明有限公司	No.12,information & Industry Garden, Xihu District, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Province, P.R.China	董事長 杉本 健	156名	照明器具の開発設計、製造
克茲米商貿（上海）有限公司	2F 212, Apt.B, No.228 Wending Rd., Xuhui Dist., Shanghai 200030 P.R.C	董事長 植村 公平	52名	照明器具の企画・販売、照明デザイン、アフターメンテナンス
コイズミライティング シンガポール PTE.LTD.	41 Ubi Crescent Singapore 408588	Director(CEO) Dave Wee	36名	照明器具の製造、販売と照明デザイン
コイズミファニテック株式会社	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7	代表取締役社長 若林 俊宏	49名	学習、書斎、プレキッズ家具、寝具の企画、開発、製造、販売
株式会社ハローリビング	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-13-27 アイカビル8階	代表取締役社長 上原 正人	46名	住宅・店舗・施設の設備機器とインテリア商材の施工、販売
株式会社ホリウチ・トータルサービス	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町11-7 ビーエム兜町ビル3階	代表取締役社長 熊野 裕章	162名	ホテル・オフィス・商業施設等への家具・什器・設備等の搬入設置
コイズミ物流株式会社	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7	代表取締役社長 八田 康	63名	グループ各社と外販得意先の輸配送、保管、荷役